

平成28年4月10日号 (第160回)

阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

お花見の季節。桜の代表といえばソメイヨシノですが、八重桜やしだれ桜を始め、300種類を超える桜が日本には生育しているそうです。色も純白から濃紅色、さらに緑や黄色の桜もあり、4月から5月にかけて様々な種類の桜が見ごろになります。

お酒を楽しむお花見も良いですが、いろいろな桜を見に足をのばすのも、この季節ならではの楽しみです。

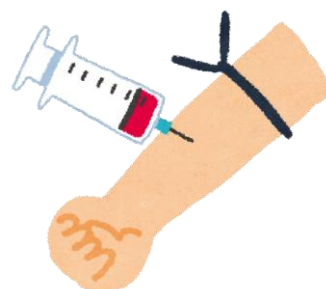


今回の阿伎留通信は、

— 「臨床検査科のご紹介」 —

をテーマに臨床検査科よりお話しさせていただきます。

皆様は「臨床検査技師」をご存じでしょうか？目につく所ですと、まず中央処置室での採血ですが、多くの看護師に交じって実は1人の検査技師が担当しています。また、2階の生理検査室では3～5人の技師が、心電図等の直接患者様に接する検査を実施しています。また、皆様の目には触れませんが、採血した血液や尿や組織の検査をしているのも、臨床検査技師です。



では、この臨床検査技師のいる、臨床検査科の紹介をしたいと思います。臨床検査科は大きく生理検査室と検体検査室に分けられます。

1. 生理検査室

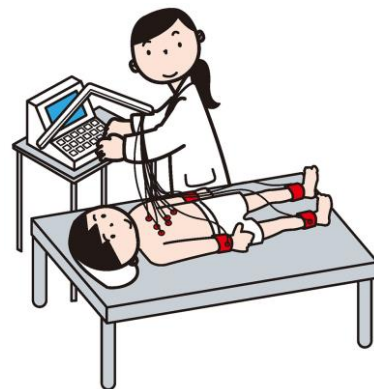
まず生理検査室ではどんな検査をしているかというと、皆様も一度は経験したことがあると思いますが、心電図です。通常は生理検査室で実施していますが、病棟や救急室にも出向いて測定します。心電図だけでなく、負荷心電図やホルター心電図（24時間記録）なども行っています。それから呼吸機能の肺機能検査です。そして聴力・平衡機能検査や脳波検査もこ



ちらで実施しています。産科診療の再開に伴い、**新生児ABR（聴力検査）**も行っております。

また近年検査数が増えてきたのが**超音波検査**です。超音波検査は、超音波の跳ね返りを利用して、体の内部をモニターに映し出す検査です。腹部、心臓、乳腺等いろいろな部位の検査があります。**胎児心臓超音波検査**も行っています。

その他様々な検査も行っておりますので、お問い合わせ下さい。また、**女性技師も検査を担当しておりますので、女性の患者様には気軽に指名していただきたい**と思います。



2. 検体検査室

次に**検体検査室**です。先ほど述べたように、中央処置室や救急室、各外来、各病棟から、血液や尿、体腔液などが送られてきて、検体検査室で分析をします。こちらでは、尿などを扱う**一般検査部門**、血算、輸血等の担当の**血液部門**、肝臓や腎臓の生化学や、血糖等の検査をする**生化学部門**、組織診や細胞診担当の**病理検査部門**の4部署に分かれています。

それぞれの検体は、そのまま測定するものや、遠心分離等の処置をしてから、個々の測定機で分析されます。インフルエンザ等の検査には、機械を使わずに手作業で測定する場合もあります。尿検査は、尿の成分その他を調べることで腎臓や膀胱などの病変がわかるなど、私たちの体内の変化を知るとも重要な検査です。“血算”とは貧血や炎症、血小板数を調べる検査で、血液の固まりやすさを調べる**凝固検査**も実施しています。輸血用血液も検査科で保存していて、必要時に交差試験（血液型不適合による輸血の副作用を未然に防ぐために行われる検査）をして安全性を確認しています。通常輸血用血液は保存期間が3週間と短いため、ほとんどの場合、医師のオーダー後に血液センターに発注をします。



そして一番検査項目が多い検査が、**生化学検査**です。血液中に含まれる様々な成分を分析して、病気の診断・治療の判定などに利用します。肝臓や腎臓など臓器によって検査項目も異なります。近年増加している糖尿病の検査もします。

最後に病理部門ですが、内視鏡や手術等により採取した組織を、顕微鏡で観察、診断ができるように標本を作製し、婦人科検診や喀痰などの検体を同じく標本にして細胞診断を実施します。

皆様にはあまりなじみのない臨床検査科かもしれませんが、生理検査等で接する機会もあるかと思いますので、**ご要望や疑問点などお気軽にお尋ねいただきたい**と思います。

阿伎留通信については、第1回から最新号まで、公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)